

第56号

発行：令和4年12月

会員数：173名（11月末現在）

（家族会員=15名、個人会員=158名）

発行責任者：田中 恆（ひさし）

編集責任者：出口 孝次

松浦武四郎記念館友の会

友の会だより

友の会事務局：

松阪市小野江町383

松浦武四郎記念館内



「友の会」のHPは、松阪市HPの中にあります。

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/site/takesiro/tomonokai.html>

（松阪市で検索してね）

新任挨拶

齋藤 猛夫

今年度から「松浦武四郎記念館友の会」の役員をさせていただきます齋藤猛夫です。先輩役員はじめ会員の皆様にご指導をいただき頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

友の会への入会は「小野江町づくり協議会」の役員時代に飯田秀前会長からお誘いをいただいたのがきっかけです。

私は現在「松浦武四郎誕生地保存会」の会員でもあり、誕生地において週1回、半日程度見学者の案内をさせていただいています。

主な内容は、・武四郎翁の誕生～全国への旅立ち～亡くなるまでのあらまし

・武四郎翁が生まれた時代の建物（主屋、土蔵、納屋、離れ座敷）及び付属物（釜戸、風呂、無双窓等）

・開拓判官任命時に建てた灯籠の由来

・金田一京助博士の記念植樹 等

時々北海道からの見学者があり、感動されたり、話が盛り上がる場合があります。

今後も「松浦武四郎記念館友の会」と「松浦武四郎誕生地保存会」が手を組み、相乗効果でもって、武四郎翁を更に全国に広めていけたらいいなあと考えています。



松阪市指定史跡 松浦武四郎誕生地とは

松阪市小野江町にあり、松浦武四郎の実家にあたります。昭和37年（1962）に、当時の三雲村が史跡に指定しました。



広い中庭

武四郎の父・時春には末っ子の武四郎のほかに、三人の子どもがおり、実家は武四郎の兄・佐七が跡を継ぎました。武四郎の父母や、兄の家族が代々住んだため、武四郎にとってはふるさとの実家です。

現在は松阪市の所有となっています。

主屋と離れ、倉庫などが保存されています。主屋は、生活の場として使用されていました。武四郎の記録では、元は松島屋善兵衛の家でしたが、天保12年（1841）頃に武四郎（当時23歳）の家族が移り住んだようです。武四郎は、北海道を目指す前の年、ここで四国遍路道中雑誌など執筆活動をしています。

離れは、お客さんが来た時にもてなす場所でした。慶応3年（1867）頃に完成し、武四郎（49歳）がお祝いとして当時の著名な画家や書道家が寄せ書きをした襖絵を贈っています。離れの庭には、武四郎が開拓判官になった記念に建てた灯籠があります。



（市ホームページより）

「県外へ！松浦武四郎奉納の神鏡を訪ねる旅」

2年前に計画されたのに、コロナ禍のため実施できなかった県外へのバスツアーでしたが、1月14日（月）に実施されました。行先は、兵庫県尼崎にある長洲天満宮、昼食を、大阪府八尾にあるグランドホテル、午後、藤井寺市にある道明寺天満宮、そして、羽曳野市にある応神天皇陵古墳でした。

どちらの天満宮にも、松浦武四郎翁が奉納した神鏡が保存されていました。拓本でしか見たことのない実物は、武四郎さんが奉納した時にはピカピカに輝いていたはずですが、長い年月を感じさせてくれました。

大発見は、道明寺天満宮に保存されていた武四郎さんから送られた手紙、石碑の拓本、神鏡を包む布袋、それを入れる木の箱が全てそろっていたことです。

もしかした、他の天満宮の倉庫に残されていても日の目を見ていない物が有るかもしれないと思わせてくれました。



長洲天満宮のご神鏡



なげす
長洲天満宮でお話を聞きました。ご神鏡は、かけてあるのをおろしておいて頂きました。



聖跡二十五霊社巡拝双六の中に長洲天満宮と道明寺天満宮があります。

松浦武四郎翁ゆかりの神鏡を訪ねる旅

高橋 雅士

総勢 33 名。初めに拝観したのが、兵庫県尼崎市の長洲天満宮。神鏡は戦災・震災で不明となっていたが、前会長の訪問依頼を受けて再調査され発見、願主は豊橋の山田太古さん（1849～1888）で、何と武四郎翁と同じ年に亡くなられたと縁のある方であった。そのことと1868年の神仏分離令が出され廃仏毀釈により多くの寺院が荒廃したとの宮司さんの話。僧侶になられたこともある武四郎翁にとっても、どんなにつらいことであつたらう。それと興味深いエピソードを一つ。道真公が太宰府に左遷される道中、長洲の地で足元が砂で汚れたのを村の老婆が見かねて池の水で足を清めたのが伝説となり、ここに一社を創建したとのこと。キリストのマグダラのマリアを思い出させるようなエピソードである。ここではおはらいをしていただき、お札を全員いただきました。ありがたさが身にしみた。

お昼は八尾グランドホテルで豪華な食事としかも3千円のお土産付き。これで会員価格7千円とは、びっくり!! 昼からは、藤井寺市にある天満宮の拝観、平成23年にも拝観したとのこと。ここで驚いたのが、菅公の遺品である6点の国宝、いずれも大きなものではなかったが、国宝が6点とは驚き。いずれ武四郎記念館の重要文化財も国宝になるのではと期待が膨らむ。菅原道真公のことは、あまり知らない。確か遣唐使の廃止を進言し、藤原某から恨まれ左遷されたとか？清がイギリスに滅ぼされ、インドがイギリスの植民地にされ、北海道もロシアに狙われていることを恐れ北海道の内陸の地図を作り、植民地にされることから守った武四郎翁と、どっちが国のために働いた？このまま「北海道の名付け親」でいいのだろうか？いろいろ考えさせられた旅であった。

帰りに寄った日本第二位の広さの応神天皇陵古墳の雨上がりの緑が実にさわやかであった。



道明寺天満宮では、有料の展示室に出して頂き、ガラス越しに見せて頂きました。日頃は、神殿の中にあるのだそうです。ご神鏡の箱などや石碑の拓本とそれを送った封筒なども保管されていて、貴重な資料を拝見することが出来ました。土師(はじ)の里にある天満宮と呼ばれていたそうです。

松浦武四郎友の会親睦奉納神鏡を訪ねる旅に参加して

倉田 進

晩秋の秋、幸い天候に恵まれて、「聖跡訪問地・第8番道明寺天満宮、第13番長州天満宮と応神天皇御陵」の三箇所を訪ねる久しぶりのバスの旅、皆さん目にする《秋の車窓の景色》に釘づけで、和やかな雰囲気の中での旅の一日スタートとなりました。

長洲天満宮での神鏡との対面はドラマチックで、併せて宮司さんとの対話は、とても印象的で思い出に残るものとなりました。また、私自身、『乗り鉄』マニアで幾度となくこの界限を通り、『鉄旅』をしているので、尼崎の史跡について、氏子の方と会話を楽しみました。

昼食先の八尾グランドホテルまでの移動は、コロナ禍を経て久しぶりに観る『大阪市街風景』が、とても新鮮に感じられると共に、過去に数年生活、勤務した事などがとても懐かしく思い出されて心に残りました。

また、道明寺天満宮は、過去にお参りしたことがあります。宝物殿で多くの収蔵品の数々には目を見張るものがあり、特に《奉納神鏡》との対面は、深く心に残りましたし、正門横の武四郎翁の『神鏡奉納を記す石碑』の存在は、初めて見る経験でとても感動し、夢中でカメラに収めました。

併せて、最後に訪れた『応神天皇陵』は、全長420メートル、仁徳天皇陵に次ぐ日本第二位の古墳で、二重の濠に囲まれた景観は、最後の訪問地にふさわしく、紅葉の散歩道を歩いての訪問は、会員の皆さんに、過ぎゆく秋を満喫させてくれたと思います。

今日一日、久しぶりのバスでの研修旅行は、参加者にとっては『天候に恵まれ、事故なく、楽しく』、有意義なものとなりました。そのうえ沢山のお土産ありがとうございました。

最後になりましたが、今回の旅は、コロナ禍の中でいつも以上に煩雑な手続きが必要で、この企画・実施に尽力して頂いた関係者各位の皆さんに、紙上をお借りして改めて御礼申し上げたいと思います。

次回の企画・実施についても、宜しくお世話頂きますようお願い申し上げます。



道明寺では、参加者全員で記念写真を撮っていただきました。3年越しなので、良い記念になりました！

【記念館からのお知らせ】

☆記念館講座のご案内

- 1 2月11日(日)10:00～ テーマ：「武四郎の蝦夷地調査」 講師：山本命
1月 8日(日)10:00～ テーマ：「武四郎の一昼敷」 講師：山本命
2月12日(日)10:00～ テーマ：「武四郎涅槃図を楽しむ」 講師：山本命
3月12日(日)10:00～11:30 特別講演会
「武四郎の蝦夷地調査の歴史的意義」
講師：三浦泰之氏（北海道博物館 学芸主幹）
4月 9日(日)10:00～ テーマ：「未定」

☆企画展示のご案内

- 12月 9日(金)～1月29日(日) 「武四郎の蝦夷地調査」
武四郎の蝦夷地調査について紹介します。
※1月30日(月)～2月2日(木)は展示替えのため休館します。
2月 3日(金)～4月2日(日) 「武四郎の涅槃図」
武四郎の涅槃図について紹介します。



松浦武四郎記念館では、

今年度からワークショップとして、「武四郎に学ぶ会」を行っています。講座では学べない様々な疑問や解説していない資料などについて、学び合います。皆様の参加を募集していますのでご連絡ください。

武四郎記念館館長

【友の会よりのお知らせ】

9月12日(月)伊勢方面バスツアーはコロナ感染が拡大中のため中止いたしました。

「昨年度予定してコロナ禍が続きあきらめざるをえなかったバスツアーですが、下記のように実施したいと考えています。突如、中止という可能性もあり、会員の皆様にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、今年度こそ、実施できることを祈るばかりです。」と前号で書きましたが、直前で中止決定になってしまいました。予定して下さった皆様申し訳ありませんでした。

第三回 拓本体験会 参加者募集中

日時 2023年(令和15年)1月28日(土) 9:30～11:30
場所 松浦武四郎記念館 多目的室(会議室)
講師 西村欣也さん、四五百の森拓本会会員の皆さん

武四郎まつりを開催する予定です！！

友の会としては、展示ブースを出したいと思います。見に来てくださいね。

日時 2023年(令和15年)2月26日(日) 9:00～15:00
場所 松浦武四郎記念館、小野江公民館、松浦武四郎誕生地

- ・拓本体験会は、募集人員を制限し15人程度にします。
- ・費用は、500円です。
- ・作品の一部を誕生地にて展示してもらいます。

会費納入のお願い

令和4年度の年会費を、8月迄に納めていただきますようお願いいたしました。コロナ禍ですので、12月中に納付いただいた方は継続に致しますので、よろしくお願いします。

今後、口座振込みをご希望の方は、役員または
記念館事務局 0598-56-6847へ
お問い合わせください。

次回の発行は、
4月の予定です。



